

広域的な漁業振興に期待

～いぶり中央漁業協同組合発足～

4月1日(木)、登別・虎杖浜・白老の3つの漁業協同組合が合併した『いぶり中央漁業協同組合』が発足し、白老町内のホテルで設立祝賀会が開かれました。

スケソウダラやエビかご、ホッキ漁など、漁業形態に共通点が多い3つの漁業協同組合の合併協議は、平成14年から本格的に開始。昨年11月には、合併の仮調印が行われました。

『いぶり中央漁業協同組合』は、組合員304人、年間販売取扱高約28億円と、胆振管内では昨年発足した『いぶり噴火湾漁業協同組合』に次ぐ規模となり、効率的な運営による組合組織の基盤強化や広域的な漁業振興が期待されています。

同組合の本所は、当面、旧虎杖浜漁業協同組合に設置されますが、数年後には、登別漁港に本所を建設・移転する予定です。



◀登別漁港

素晴らしい施設で勉強に専念します

～日本工学院北海道専門学校入学式～

4月13日(火)、日本工学院北海道専門学校で入学式が行われ、道内外から新入生467人が期待に胸を膨らませ、学生生活をスタートさせました。

式では、中川明弘校長が「全国一自然に恵まれた広大なキャンパスで、多くの施設、設備をフルに活用して、明るく、健康に学院生活を送ってください」と新入生を激励。

続いて、新入生を代表し、情報処理科の小館麻美さん(室蘭清水丘高校卒業)が「私たちは、これからの2年間を、それぞれの目標を達成するよう思いきり励み、努力いたします」と力強く述べていました。



市民みんなの力でまちをきれいに

～春の登別クリーン作戦～

4月18日(日)、市内一斉に『春の登別クリーン作戦』が行われ、早朝から参加した市民は、さわやかな青空の下、まちのごみ拾いを通して、心地よい奉仕の汗を流しました。

この行事は、清潔で快適な美しいまちを実現しようと、登別市衛生団体連合会が市や登別市連合町内会の協力により、春と秋の年2回行っているもので、今回は84の町内会・町会・自治会から約3,500人が参加しました。

参加者は、午前8時から約1時間、川沿いや公園、広場などから、空き缶やペットボトル、紙くず、空き瓶などの燃やせるごみ、燃やせないごみ、瓶・缶と3分別しながら拾い集めていました。

この日、クリンクルセンターに集められたごみと放置自転車は、いずれも昨年より増加。まち並みはきれいになりましたが、一方で市民のモラルが問われる結果となりました。

